

分担研究報告書

在宅医療における精神症状緩和推進研究
在宅医療スタッフのためのこころのケア教育プログラムの開発

研究分担者 明智 龍男 名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学

研究協力者 久保田 陽介（名古屋市立大学病院）
奥山 徹（名古屋市立大学病院）

研究要旨

質の高い在宅医療の推進は我が国の喫緊の課題であり、これは東日本大震災の被災地においても例外ではない。本研究では、在宅医療スタッフを対象とした、精神心理的苦痛を有する患者のケア向上に資する教育プログラムの開発を行うとともに、そのプログラムの有用性を検討することを主たる目的とした。研修会事前のインターネットを用いた講義30分間と、ロールプレイを中心とする4時間30分の研修会からなるプログラムを開発し、11名の訪問看護師に対して実施した。実施前後で精神心理的苦痛を有するがん患者へのケアの自信、知識に関する自記式質問票を施行し、プログラムの有用性を検討した。その結果、本教育プログラムが、ケアに関する自信を改善しうることを予備的に示した。

A．研究目的

質の高い在宅医療の推進は我が国の喫緊の課題であり、これは東日本大震災の被災地においても例外ではない。中でも、在宅医療においても精神症状緩和を含む緩和医療が求められるが、在宅医療スタッフは患者の精神心理的苦痛の評価や、それを有する患者に対するケアに困難を感じている。

本研究では、在宅医療スタッフを対象とした、精神心理的苦痛を有する患者のケア向上に資する教育プログラムの開発を行うとともに、そのプログラムの有用性を検討することを主たる目的とする。

B．研究方法

[教育プログラムの開発]

我々は本研究に先立ち、がんに関する専門・認定看護師を対象とした精神症状教育プログラムを開発・実施し、その過程のなかで、1．専門・認定看護師にとっても精神的側面に関するコミュニケーションは難易度が高いこと、2．

ロールプレイが有用であること、3．長時間のプログラムは参加者にとって負担が大きいこと、などを経験した。

そこで、これらを踏まえて、本教育プログラムでは、以下の3つの要素を取り入れることとした。1．「在宅医療スタッフが、患者の精神心理的苦痛に注意し、感情に焦点を当てた会話をを用いて、支持的なコミュニケーションをすることができる」ことをゴールとすること；2．ロールプレイを中心とする研修内容とし、その理解を深めるために、コミュニケーションの実例を盛り込んだDVDを作成すること；3．均てん化を考えて開催実施可能性を高める工夫を取り入れること。

そのうえで、精神腫瘍学の教育経験を有する精神科医の議論を通して、これらの要点を取り入れたプログラムを開発することとした。

開催実施可能性を高める工夫としてはa．講義を研修会前にインターネットで行うこと、b．研修会所要時間を半日程度とすること、c．プログラムにおけるファシリテーターは特に精神腫瘍学や緩和ケアの経験を有しない心理学

部大学院生 10 名が行うこと、とした。

なお心理学部大学院生に対しては、プログラム実施に先立ち、半日のファシリテーター研修会を開催した。

[教育プログラムの効果検討]

対象：在宅医療に関わるスタッフ、特に訪問看護師を対象とする。

介入：上記教育プログラムを実施した。

評価項目：実施前後で、我々が先行研究においてデルファイ法を用いて開発した「通常の心理反応へのケア」に関する自信、知識に関する自記式質問票を施行した。主結果指標である自信は 0-10 Numerical Rating Scale 3 項目から構成され、総合スコアは 0-30 点に分布し、高得点が自信があることを意味する。副結果指標である知識は、正誤を問う質問 4 項目から構成され、総合スコアは 0-4 点に分布し、高得点が知識を有していることを意味する。

統計解析：一群前後比較(対応のある t 検定)を行った。

(倫理面への配慮)

本研究は医療従事者を対象とした教育に関する研究であり、有害事象などもほとんど生じないと考えられることから、文書により研究協力の依頼を行い、調査票への回答をもって協力の同意とみなした。

C . 研究結果

[教育プログラムの開発]

インターネットを用いた講義 30 分間と、ロールプレイを中心とする 4 時間 30 分の研修会からなるプログラムを開発した。また DVD に関しては、在宅医療の現場を想定し、「患者と支持的コミュニケーションを行う」「家族と支持的コミュニケーションを行う」という 2 パターンを収録し、コミュニケーションのポイントを解説した内容とした。

[教育プログラムの効果検討]

訪問看護師 11 名を対象に、本教育プログラムを実施した。参加者の背景は、平均年齢 50 歳、看護師としての経験年数は平均 24 年、6 名が介護支援専門員の資格を有していた。

統計解析の結果、がん患者へのケアに関する自信は統計学的に有意に改善した(介入

前:12.9±5.7、介入後：19.2±5.1、 $p<0.05$)。ケアの知識については改善を認めなかった(介入前:4.1±0.8、介入後：4.4±0.9、 $p=0.47$)。

D . 考察

半日程度の簡便な教育プログラムを開発し、本教育プログラムによって、訪問看護師のこのケアに関する自信を改善しうることが示された。

本結果が、a . インターネット学習採用、b . 研修会の短時間化、c . 心理学部大学院生によるファシリテーションによる開催に伴う人的資源削減、などの実施可能性を高める工夫を採用したプログラムによって得られたものであることに特筆すべき意義があると考ええる。

E . 結論

さらに多くの参加者を得て、本研究プログラムの有用性を検討する。

F . 健康危険情報

なし

G . 研究発表

1. 論文発表

1. Akechi T, et al.: Assessing medical decision making capacity among cancer patients: Preliminary clinical experience of using a competency assessment instrument. Palliat Support Care:1-5, 2013
2. Asai M, Akechi T, et al.: Impaired mental health among the bereaved spouses of cancer patients. Psychooncology 22:995-1001, 2013
3. Fielding R, Akechi T, et al.: Attributing Variance in Supportive Care Needs during Cancer: Culture-Service, and Individual Differences, before Clinical Factors. PLOS ONE 8:e65099, 2013
4. Furukawa TA, Akechi T, et al: Cognitive-behavioral therapy modifies

- the naturalistic course of social anxiety disorder: Findings from an ABA design study in routine clinical practices. *Psychiatry Clin Neurosci* 67:139-47, 2013
5. Inagaki M, Akechi T, et al.: Associations of interleukin-6 with vegetative but not affective depressive symptoms in terminally ill cancer patients. *Support Care Cancer* 21:2097-106, 2013
 6. Kawaguchi A, Akechi T, et al.: Group cognitive behavioral therapy for patients with generalized social anxiety disorder in Japan: outcomes at 1-year follow up and outcome predictors. *Neuropsychiatr Dis Treat* 9:267-75, 2013
 7. Nakaguchi T, Akechi T, et al.: Oncology nurses' recognition of supportive care needs and symptoms of their patients undergoing chemotherapy. *Jpn J Clin Oncol* 43:369-76, 2013
 8. Nakano Y, Akechi T, et al.: Cognitive behavior therapy for psychological distress in patients with recurrent miscarriage. *Psychol Res Behav Manag* 6:37-43, 2013
 9. Rees J, Akechi T, et al.: Cancer Patients' Function, Symptoms and Supportive Care Needs: A Latent Class Analysis Across Cultures. *quality Life Res.* in press.
 10. Banno K, Akechi T et al.: Neural basis of three dimensions of agitated behaviors in patients with Alzheimer disease. *Neuropsychiatric Disease and Treatment.* in press.
 11. Snyder C, Akechi T, et al.: Using the EORTC QLQ-C30 in Clinical Practice for Patient Management: Identifying Scores Requiring a Clinician's Attention. *Quality of Life Research.* in press.
 12. Shiraishi N, Akechi T. et al.: Brief Psychoeducation for Schizophrenia Primarily Intended to Change the Cognition of Auditory Hallucinations: An Exploratory Study. *Journal of Nervous and Mental Disease.* in press.
 13. Shibayama O, Akechi T, et al.: Association between Adjuvant Regional Radiotherapy and Cognitive Function in Breast Cancer Patients Treated with Conservation Therapy. *Cancer Medicine.* in press.
 14. Kawaguchi A, Akechi T. et al.: Hippocampal volume increased after cognitive behavioral therapy in a patient with social anxiety disorder: a case report *The Journal of Neuropsychiatry and Clinical Neurosciences.* in press.
 15. Kawaguchi A, Akechi T. et al.: A case of schizophrenia accompanied with lissencephaly. *The Journal of Neuropsychiatry and Clinical Neurosciences.* in press
 16. 明智龍男: がん患者の抑うつの評価と治療. *NAGOYA MEDICAL JOURNAL* 53:51-55, 2013
 17. 明智龍男: 一般身体疾患による気分障害, 今日の治療指針, 山口徹., 北原光夫., 福井次矢. (編), 医学書院, 868, 2013
 18. 明智龍男: 精神症状マネジメント概論, 緩和医療薬学, 日本緩和医療薬学会 (編), 南江堂, 79, 2013
 19. 伊藤嘉規, 奥山徹, 中口智博, 明智龍男: 小児がん患者とその家族のこころのケア. *精神科* 23:288-292, 2013
 20. 明智龍男: がんところのケア-サイコオンコロジー. *精神科* 23:271-275, 2013
 21. 明智龍男: がん患者の自殺に関する最新データ. *緩和ケア* 23:195, 2013
 22. 明智龍男: せん妄の向精神薬による対症療法と処方計画. *精神科治療学* 28:1041-1047, 2013
 23. 明智龍男: 緩和医療とせん妄. *臨床精神医学* 42:307-312, 2013
 24. 明智龍男: 希死念慮を有する患者のアセスメントとケア. *緩和ケア* 23:200, 2013
 25. 明智龍男: 術後せん妄. *消化器外科* 36:1643-1646, 2013
 26. 明智龍男: 抑うつとがん. *レジデントノート* 15:2440-2443, 2013
 27. 明智龍男, 森田達也: 臨床で役立つサイ

コオノコロジ-の最新エビデンス-特集にあたって. 緩和ケア 23:191, 2013

2. 学会発表

1. Nagashima F, Akechi T, et al: Successive comprehensive geriatric assessment (CGA) can be prognostic factors of elderly cancer patients; in 13th Conference of the International Society of Geriatric Oncology. Copenhagen, 2013 Oct
2. Yamada M, Akechi T, et al: A pragmatic megatrial to optimise the first- and second-line treatments for patients with major depression: SUN(^_^)D study protocol and initial results; in American Society of Clinical Psychopharmacology. Hollywood, FL, 2013 May
3. Kawaguchi A, Akechi T, et al: Hippocampal volume increased after cognitive behavioral therapy (CBT) in patients with social anxiety disorder (SAD): A case report; in The 4th Asian Cognitive Behavior Therapy (CBT) Conference. Tokyo, 2013 Aug
4. 山田光彦, 明智龍男, 他: 抗うつ薬の最適使用戦略を確立するための実践的多施設共同ランダム化比較試験 SUN®D study: メガトライアル実践のための工夫と挑戦. 第34回日本臨床薬理学会, 2013年12月, 東京
5. 明智龍男: がんと心のケア-がんになっても自分らしく過ごすために. 第27回日本泌尿器内視鏡学会総会市民公開講座, 2013年11月, 名古屋
6. 明智龍男: がん患者の精神症状のマネジメント-特に前立腺がんを念頭に. 第27回日本泌尿器内視鏡学会総会ランチョンセミナー, 2013年11月, 名古屋
7. 明智龍男: サイコオンコロジ- -がん医療におけるこころの医学. 平成25年度東海オンコロジ-応用セミナー2「緩和ケア」特別講演, 2013年11月, 名古屋
8. 明智龍男: 精神腫瘍学(サイコオンコロジ-). 2013年度 がん治療認定医 教育セミナー, 2013年11月, 幕張
9. 伊藤嘉規, 明智龍男, 他: シンポジウム 小児がん患者とその家族への心理社会的支援の在り方を考える 小児がん患者におけるgood death. 第26回日本サイコオンコロジ-学会総会, 2013年9月, 大阪
10. 久保田陽介, 明智龍男, 他: がん看護の専門性を有する看護師を対象としたがん患者の精神心理的苦痛に対応するための教育プログラムの有用性: 無作為化比較試験. 第26回日本サイコオンコロジ-学会総会, 2013年9月, 大阪
11. 菅野康二, 明智龍男, 他: 高齢がん患者における治療に関する意思決定能力障害の頻度と関連因子の検討. 第26回 日本サイコオンコロジ-学会総会, 2013年9月, 大阪
12. 内田恵, 明智龍男他: 放射線治療中のがん患者における倦怠感と抑うつ・不安の関連. 第26回 日本サイコオンコロジ-学会総会, 2013年9月, 大阪
13. 平井啓, 明智龍男, 他: 術後早期乳癌患者に対する問題解決療法の有効性に関する前後比較. 第26回 日本サイコオンコロジ-学会総会, 2013年9月, 大阪
14. 北村浩, 明智龍男, 他: 継続的な高齢者総合機能評価は高齢がん患者の予後予測因子となりうる. 第26回 日本サイコオンコロジ-学会総会, 2013年9月, 大阪
15. 明智龍男: サイコオンコロジ-入門「がん患者・家族との良好なコミュニケーションのために」. 第26回日本サイコオンコロジ-学会総会, 2013年9月, 大阪
16. 明智龍男: 特別企画 サイコオンコロジ-入門「がん患者・家族との良好なコミュニケーションのために」. 第26回日本サイコオンコロジ-学会総会, 2013年9月, 大阪
17. 近藤真前, 明智龍男, 他: 慢性めまいに対する前庭リハビリテーションと内部感覚曝露. 第13回日本認知療法学会学術総会, 2013年8月, 東京
18. 小川成, 明智龍男, 他: 認知行動療法によるパニック障害の症状変化が社会機能やQOLに及ぼす影響. 第13回日本認知療法学会, 2013年8月, 東京
19. 明智龍男: サイコオンコロジ- -がん医療におけるこころの医学. Psycho Oncology

- Seminar 特別講演, 2013年8月, 京都
20. 明智龍男: 身体疾患の不安・抑うつ-特にがん患者に焦点をあてて. 第8回不安・抑うつ精神科ネットワーク 特別講演, 2013年8月, 松江
 21. 明智龍男: シンポジウム がん緩和ケアにおけるうつ病対策-がん患者に対する精神療法. 第10回 日本うつ病学会総会, 2013年7月, 北九州市
 22. 伊藤嘉規, 明智龍男、他: 小児緩和ケアにおける家族の心理的負担. 第18回日本緩和医療学会総会, 2013年6月, 横浜
 23. 中口智博, 明智龍男、他: 化学療法中のがん患者のニードと心身の症状に関する看護師の認識度. 第157回名古屋市立大学医学会, 2013年6月, 名古屋
 24. 明智龍男: がんサバイバーに対する精神的ケア. 第62回東海ストーマ・排泄リハビリテーション研究会 特別講演, 2013年6月, 名古屋
 25. 明智龍男: サイコオンコロジー-がん医療におけるこころの医学. 第6回南区メンタルフォーラム 特別講演, 2013年6月, 名古屋
 26. 明智龍男: 特別企画 サイコオンコロジー入門「がん患者・家族との良好なコミュニケーションのために」. 第18回日本緩和医療学会総会, 2013年6月, 横浜
 27. 明智龍男: 乳がん患者に対するこころのケア-特に再発後に焦点をあてて. 第21回日本乳癌学会 モーニングセミナー, 2013年6月, 浜松
 28. 川口彰子, 明智龍男、他: 薬物治療抵抗性うつ病への電気けいれん療法の反応性と海馬体積の関連の検討. 第109回日本精神神経学会学術総会, 2013年5月, 福岡
 29. 白石直, 明智龍男、他: 青年期の女性の体重とその認知、ダイエット行動は、暴力行為と関連するか?. 第109回日本精神神経学会学術総会, 2013年5月, 福岡
 30. 明智龍男: がんの患者さんのこころを支援する: 心理療法的アプローチを中心に. 第4回北海道がん医療心身ネットワーク研究会・講演会 特別講演, 2013年2月, 札幌
 31. 中口智博, 明智龍男、他: 化学療法に伴う予期性悪心嘔吐と学習性食物嫌悪. 第3回

東海乳癌チーム医療研究会, 2013年1月, 名古屋

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許の取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

